



学習指導要領改訂に向けた論点13

カリキュラム・マネジメントの実態と今後の推進の在り方

- 教職員同士が協力して、学校全体でカリキュラムの編成・実施・評価・改善のPDCAサイクルを確立していくことは、子供の社会的背景を乗り越えて学力を向上させていく学校の特色の一つとして指摘されている。
- 学校におけるカリキュラム・マネジメントについては、学校における実施の認識が高まってきているが、計画を立ててそれを遵守することに注力してしまい、子供や学校の実態に応じ年度途中でも柔軟に見直しながら実施していくことに課題があるとの指摘もある。
- 学習指導要領が変化しても学校を取り巻くシステムや組織文化が旧来の状態に留まる、という状況を脱却するのが現行学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの提起の趣旨の一つであったが、十分に具現化するところには至っていない。学校の「組織原理・文化」等も含めて、学校のシステム・組織全体のマネジメントの観点からも、カリキュラム・マネジメントの充実の在り方について検討すべき。



「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」(令和6年9月18)

足るを知り、分を守る

実業家 渋沢栄一

進取的欲望を持つ一方に、足るを知り、分を守る心掛けが肝要である。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」(致知出版社)

※ 幸せに生きる上で、大切なことだと思います。